

平成26年4月15日

平成26年度病虫害発生予報第1号

長崎県病虫害防除所長

向こう1か月間における主な病虫害の発生動向は次のように予想されます。

【予報の概要】

農作物名	病虫害名	発生程度	
		現況	予想
水稲共通	ヒメトビウンカ(技術情報第1号) 縞葉枯病(技術情報第1号)	- -	並 少
麦類	うどんこ病 赤かび病(防除情報第14号継続)	少 -	少 並
ばれいしょ	疫病(防除情報第1号継続) アブラムシ類 ジャガイモガ	並 並 並	並 並 並
トマト	黄化葉巻病 灰色かび病 コナジラミ類	やや少 並 並	やや少 並 並
いちご (本圃)	うどんこ病 灰色かび病 アブラムシ類 ハダニ類	やや少 並 やや少 並	やや少 並 やや少 並
かんきつ	そうか病 かいよう病 ミカンハダニ	- - やや多	並 少 やや多
なし	赤星病 黒星病 アブラムシ類	並 並 並	並 並 並
果樹共通	カメムシ類	並	並
茶	カンザワハダニ チャノキイロアザミウマ クワシロカイガラムシ	やや多 やや多 やや少	やや多 やや多 やや少

【発生予報】

本文の()内は平年値

水稲共通

1. ヒメトビウンカと縞葉枯病

平成26年4月15日付け、病虫害発生予察技術情報第1号による。

麦類

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

ア 4月上旬の巡回調査(二条大麦9筆、小麦15筆)の結果、発生を認めなかった(二条大麦:発生を認めない、小麦:発病茎率0.2%、発生圃場率3.3%)。

イ 4月3半旬の県予察圃場(無防除、諫早市)調査の結果、発生を認めなかった(二条大麦・裸麦:発生を認めない、小麦:発病茎率0.1%)。

2. 赤かび病

平成26年3月27日付け**病害虫発生予察防除情報第14号**を継続。

なお、その後の発生状況等については以下のとおりである。

(1) 発生状況等

ア 4月上旬の巡回調査の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

イ 4月3半旬の県予察圃場(無防除、諫早市)調査の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

ばれいしょ

1. 疫病

平成26年4月3日付け**病害虫発生予察防除情報第1号**を継続。

なお、その後の発生状況等については以下のとおりである。

(1) 発生状況等

ア 4月上旬の巡回調査(24筆)の結果、発生を認めなかった(発生株率0.0%、発生圃場率0.5%)。

イ ジャガイモ疫病初発期予測モデル(FLABS長崎モデル:農林技術開発センター)によると、2月15日、3月1日および3月15日を出芽日とした予測初発期間は下表のとおりである。

表 ジャガイモ疫病の予測初発期間(平成26年春作)

出芽日	2月15日	3月1日	3月15日
長崎	4/4~14 (3/30~4/1)	4/8~18 (4/3~5)	4/11~21 (4/6~8)
大瀬戸	4/3~13 (3/29~31)	4/6~16 (4/1~3)	4/8~18 (4/3~5)
大村	4/8~18 (4/3~5)	4/10~20 (4/5~7)	4/11~21 (4/6~8)
島原	4/5~15 (3/31~4/2)	4/7~17 (4/2~4)	4/10~20 (4/5~7)
口之津	4/8~18 (4/3~5)	4/10~20 (4/5~7)	4/22~5/2 (4/17~19)
平戸	4/4~14 (3/30~4/1)	4/6~16 (4/1~3)	4/8~18 (4/3~5)
福江	4/5~15 (3/31~4/2)	4/9~19 (4/4~6)	4/11~21 (4/6~8)
愛野		4/8~18 (4/3~5)	4/9~19 (4/4~6)
西諫早	4/9~19 (4/4~6)	4/11~21 (4/6~8)	4/12~22 (4/7~9)

- 注1) F L A B S長崎モデルにアメダス観測値を入力した結果出芽日は50%出芽日
- 注2) 期日の上段は初発時期の予測結果を示し、下段()内は効率的防除を行うための防除開始時期を示す
- 注3) 愛野は、農林技術開発センター馬鈴薯研究室(雲仙市愛野町)の観測値による予測結果
- 注4) 西諫早は、農林技術開発センター(諫早市貝津町)の観測値による予測結果

2. アブラムシ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(24筆)の結果、寄生株率は3.5%(5.5%)、発生圃場率は41.7%(50.5%)であった。

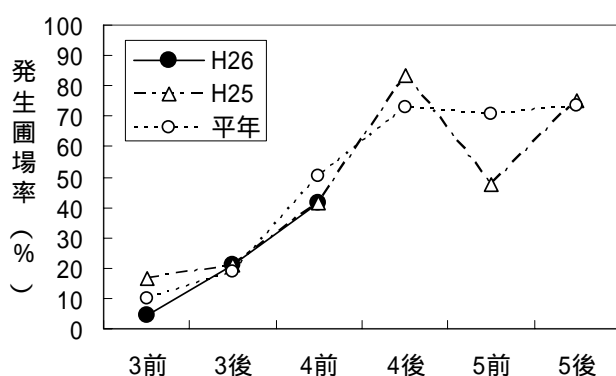


図 ばれいしょアブラムシ類発生圃場率の推移 (巡回調査)

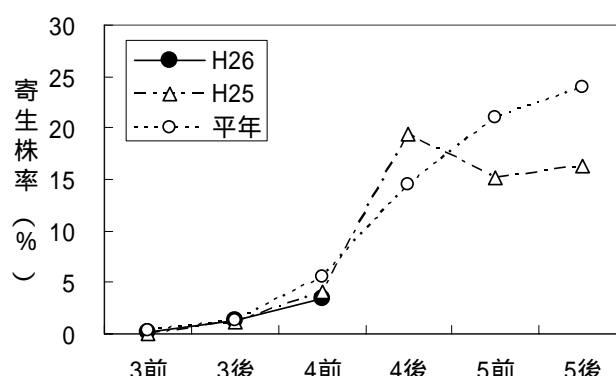


図 ばれいしょアブラムシ類寄生株率の推移 (巡回調査)

3. ジャガイモガ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(24筆)の結果、発生を認めなかった(被害株率0.1%、発生圃場率0.6%)。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 栽培期間中に薬剤防除を行い本虫の密度低減を図る。
- イ 畝表面に露出したいもに産卵するので、栽培期間中は土寄せを十分に行う。
- ウ 掘り取りは日中に行い、掘り取ったいもは長く圃場に放置せず成虫が活動し始める夕方までに屋内に収納する。圃場に残したくずいも等はできるだけ早く処分する。
- エ 貯蔵庫の開閉部や隙間からの成虫の侵入を防ぐとともに、貯蔵庫に収納したいもは寒冷紗、こも等で覆って成虫の侵入を防ぐ。
- オ 貯蔵中に被害が発生した場合は、定期的に被害いもを除去する。

トマト

1. 黄化葉巻病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病株率は0.2%(過去9カ年平均0.8%)、発生圃場率は8.3%(同21.3%)であった。

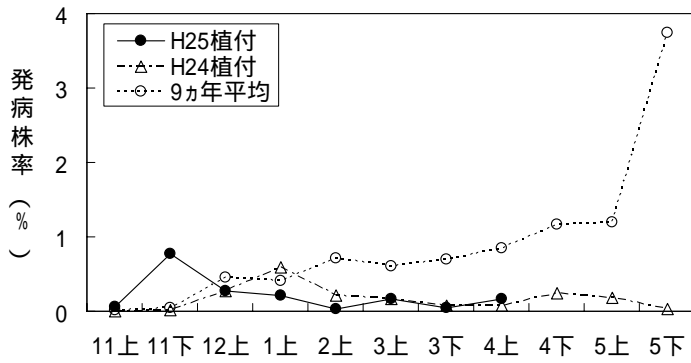


図 トマト黄化葉巻病 発病株率の推移

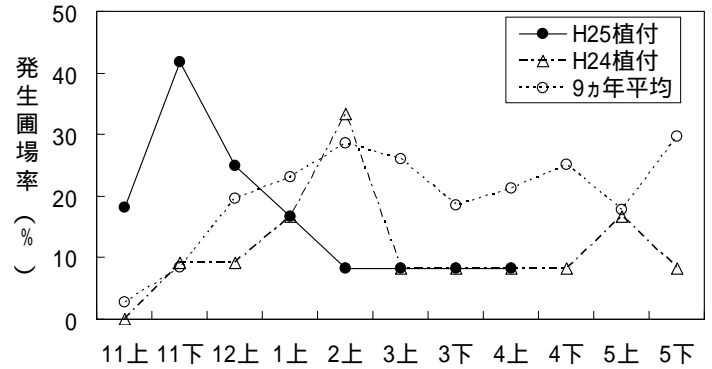


図 トマト黄化葉巻病 発生圃場率の推移

2. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病果率は0.4%(0.7%)、発生圃場率は25.0%(29.6%)、発病葉率は1.5%(前年2.9%)、発生圃場率は33.3%(同33.3%)であった。

3. コナジラミ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生葉率は0.7%(1.9%)、発生圃場率は33.3%(28.7%)であった。

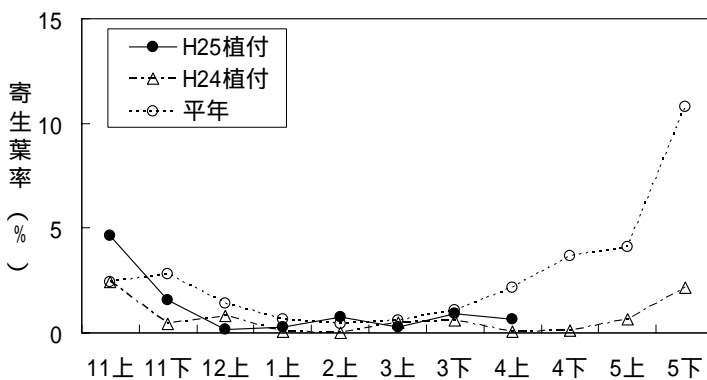


図 トマトコナジラミ類 寄生複葉率の推移

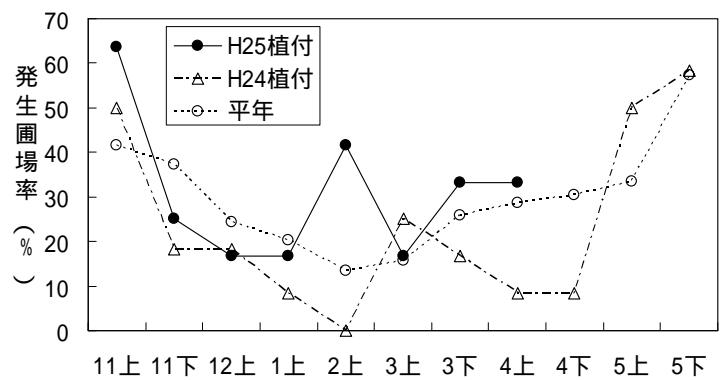


図 トマトコナジラミ類 発生圃場率の推移

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(27筆)の結果、葉での発生は認めなかった(発病株率0.2%、発生圃場率4.3%)。発病果率は0.0%(0.1%)、発生圃場率は3.7%(6.6%)であった。

2. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発病果率は0.1%(0.2%)、発生圃場率は22.2%(17.4%)であった。

3. アブラムシ類

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生を認めなかった(寄生株率0.5%、発生圃場率8.4%)。

4. ハダニ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は8.2%(9.9%)、発生圃場率は48.1%(45.0%)であった。

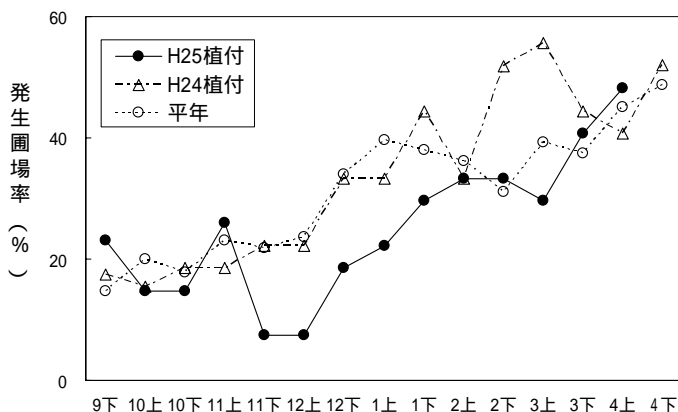


図 いちご ハダニ類 発生圃場率の推移
平年: H15 ~ H24の平均値(最大・小値除く)
ただし、12/下、1/下、2/下はH19 ~ H24の平均値

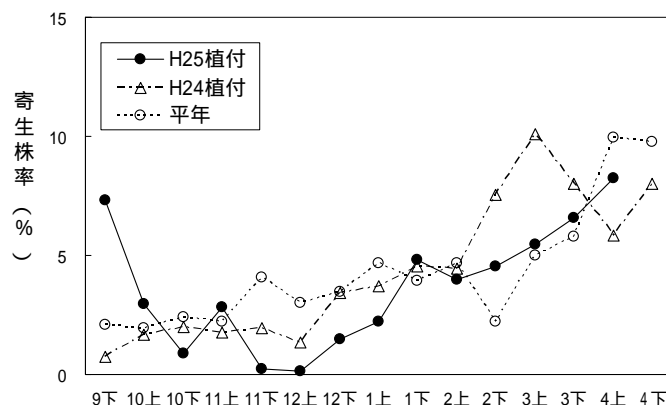


図 いちご ハダニ類 寄生株率の推移
平年: H15 ~ H24の平均値(最大・小値除く)
ただし、12/下、1/下、2/下はH19 ~ H24の平均値

かんきつ

1. そうか病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

3月下旬の巡回調査(36筆)の結果、旧葉での発生を認めなかった(発病葉率0.0%、発生圃場率2.6%)。

2. かいよう病

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

3月下旬の巡回調査(36筆)の結果、旧葉での発病葉率は0.0%(0.4%)、発生圃場率は2.8%(21.3%)であった。

3. ミカンハダニ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(36筆)の結果、寄生葉率は2.7%(1.0%)、発生圃場率は27.8%(17.0%)であった。

なし

1. 赤星病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発病葉率0.1%、発生圃場率1.0%)。

2. 黒星病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発病葉率0.0%、発生圃場率0.8%)。

3. アブラムシ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生新梢率は0.2%(0.4%)、発生圃場率は8.3%(18.8%)であった。

果樹共通

1. カメムシ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1~2月に実施したチャバネアオカメムシの越冬量調査の結果、常緑広葉樹林の落葉中の虫数は0.42頭/m²(0.48頭/m²)と平年並であった(平成26年3月3日付け病害虫発生予察技術情報第4号参照)。

茶

1. カンザワハダニ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(16筆)の結果、寄生葉率は3.1%(1.5%)、発生圃場率は37.5%(31.3%)で、一部多発圃場が見られた。

(3) 防除上注意すべき事項

葉裏にも十分薬液がかかるよう散布する。

2. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(16筆)の結果、たたき落とし虫数(5回×4カ所当たり)は9.7頭(6.2頭)、発生圃場率は93.8%(60.2%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤感受性低下防止のため、同一系統の薬剤は連用しない。

3. クワシロカイガラムシ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(16筆)の結果、寄生株率は3.1%(9.1%)、発生圃場率は43.8%(61.7%)であった。

